

会員建築作品紹介



11号棟「グリーンシード鈴木ビル」

横浜支部 (株)大野設計事務所 大野 浩昭

■計画概要

用 途: 店舗・事務所

構 造: 鉄骨造5階建

建築面積: 152.63㎡

延床面積: 629.69㎡

5階建てのこの建物は、本街区（戸塚パルソ）の北側、新たな公益施設の建設予定地とバスターミナルを結ぶ幅6メートルの歩行者専用通路の中程に位置する。この街区の中で唯一前面道路の斜線をまともに受け、3階より上部は歩行者の視界に入りにくい形態となっている。したがって、1-2階部分にビルとしての存在感を持たせる意匠的な工夫が必要であった。この再開発では我々が関わる以前の早い時期から、概略の基本設計が提示されており、それに従って全体計画が行われていた。幸いにも、地権者が街区のデザインに造詣が深く、ビルへの出入口部分を商業ビルらしい空間として、街に貢献できないかという提案を頂き、当初の基本設計を変更し、エントランス部分に2階店舗に通じる階段を設けることで、街区に変化を持たせ、商業エリアの活性に寄与することが出来たのではないかと考えている。また、このビルの5階には、オーナーの営む小さなカフェ&フラワーショップがあり、セットバックによってできたルーフバルコニーに、ハーブが沢山植えられ、街区の中で別世界の雰囲気を出した異空間となっている。前出9月号で触れられたように、エントランス部分について、10号棟とエントランススペースを共有し、空間を演出する事については、既に位置が決まっていた電気設備の移設先の問題等で十分な解法を導き出せていない部分があり、今後の展開の中でより良い解法を模索していきたい。このように12棟の建物が同時に計画され、各設計者がチームとして問題を共有しながら解決策を模索する手法は、地権者が再開発内のビルを所有するという全国的に見ても

珍しい再開発のプロトタイプとして、一つの方法論を提示したものと確信している。また手法としては、かなり早い段階で全体をコーディネートし、街区の何処にどのようなパーツを分散させていく事が可能なのかを検討し、具体的な街区計画を決めてから個別の設計に入っていく事が、本来望ましいと感じた。しかし反面、計画をとりまとめ、地権者間の合意を得る為に要する時間と費用は膨大なものとなり、また新たな問題となる事も事実であろう。再開発以前の街区は、自然発生的に増殖していったフラクタルでプリミティブな形態を成していたが、これを人為的に造りこむ事は不可能である。今後公益施設の完成と共に、人の動きも、この街区の様相も変わってゆくものと考えられ、更に街区として発展、成熟する事を望んでやまない。



11号棟外観